
■ JXホールディングス(5020) 2011 年度第 2 四半期決算 アナリスト説明会 Q&A

1. 日 時 : 11 月 4 日(金)16:00-17:00
2. 出席者数 : 155 名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 石油製品市況について、下期の見方は。

A. ほぼ期初（5 月）にお出ししたときの前提の通りと見ている。

Q. 銅価について、市況のブレが大きいが、今後の見方は。

A. 欧州の財政危機、中国の景気減速懸念などにより、足元は若干弱含んでいる。しかしながら世界の銅需給を見ると依然としてタイトであり、短期的な変動はあっても中長期的な基調は強いと見ている。

Q. 期初（5 月）時点では上期の在庫影響除き経常利益を 1,350 億円としていたが、実績は 1,639 億円と約 300 億円上ぶれた。一方通期の在庫影響除き経常利益は 5 月時点から変わっていない。下期の見方が保守的ではないか。

A. ナフサの市況低迷、石化製品市況の減速、足元の銅価の下落などを織り込んでおり、特に保守的な見方とは思っていない。

Q. 来年度を見る場合にはどんなトピックがあるか。

A. 2012 年度はシナジー効果を 330 億円積み上げ、中計目標である 1,090 億円の達成を見込むほか、鹿島、仙台の復興による効果も出てくるのではないかと見ている。

Q. 出光興産が徳山製油所の閉鎖を発表したが、JX が具体的な削減手段を公表するタイミングについてはどう考えればよいか。

A. 当初発表した 60 万 B/D の削減のうち、40 万 B/D については昨年実施済みである。残り 20 万 B/D の詳細についても必ず実施するが具体的なやり方については現在検討中。公表のタイミングについても今言える段階にない。

Q. 中期経営計画の発表から 1 年半が経過したが、財務戦略の進捗は。

A. 震災からの復旧・復興に 1,700 億円の追加的なキャッシュアウトがあると見積もったが、これを精査し圧縮する一方で、遊休資産の売却を進めており、目標であった 2012 年度末のネット D/E レシオ 1.0 倍は達成できる見込みだ。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

(1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化

(2) 法律の改正や規制の強化、

(3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。